

学研都市京都府域・公共交通セミナー総括及び次年度方針

1. セミナー開催目的・背景

- ・ 令和7年3月に策定した「けいはんな学研都市（京都府域）地域公共交通計画」は、学研都市建設において、ひときわ遅れているのが公共交通整備であるとの認識のもと、公共交通に焦点を当て、けいはんな学研都市（京都府域）にとって望ましい地域公共交通の将来像と、その実現に向けた施策の方向性を示したものである。
- ・ 計画策定の過程において、公共交通整備は当初から重要な位置づけがなされていたにもかかわらず、道路整備と比較して行政の関与や財政的負担が十分でなく、結果として交通事業者に委ねられてきたという構造的課題を改めて認識するに至った。
- ・ こうした背景を踏まえ、本セミナーは、計画策定直後の「機運醸成の初年度」に位置づけ、「広域的な公共交通アクセスの改善」を大きなテーマとして開催した。計画策定の背景や問題意識を共有するとともに、公共交通を都市経営の観点から捉え直し、公共交通に対する公的支出の必要性を行政が改めて認識する契機とすることを目的に、筑波大学の谷口守教授を招聘した。

2 実施概要

日時：令和7年11月6日（木）午後3時30分から午後5時

参加者：110名

プログラム：・計画策定の経過報告

・基調講演「都市と交通をつなぐ～けいはんな学研都市で考える『まちの黒字化』～」筑波大学 谷口教授

・パネルディスカッション

ファシリテーター 大阪産業大学 波床教授（本協議会会長）

パネリスト 筑波大学 谷口教授

パネリスト 本協議会委員（地域公共交通利用者代表）中室建氏

パネリスト 国土交通省近畿地方整備局建政部 星野調整官

- ・ 筑波大学谷口教授の基調講演では「まちの黒字化と公共交通」をテーマに、「公共交通は、まちを黒字化するためのツールであり、都市と交通は一体的に考え、公共交通は、まち全体を持続可能にするための重要な投資であることが示された。また、海外においては公共交通に対する公的支出が日本と比較して圧倒的に大きいことが紹介され、公共交通への公費投入の必要性が学術的視点から明確に示された。
- ・ パネルディスカッションでは、学識者、行政、地域公共交通利用者という異なる

立場から、都市と交通の将来像についての視座が提示された。

3 成果（別紙アンケート結果参照）

- ・ アンケート回答者25名のうち、約9割がセミナーについて「有意義であった」と回答した。
- ・ また、参加者110名の内訳は、以下のとおりである。
行政関係者 38名（35%）
来賓（地元議員・関経連） 7名（6%）
地元商工会・立地企業等 38名（35%）
本協議会委員 27名（24%）
- ・ 公共交通関係者にとどまらず、学研都市関係機関や近隣自治体の関係者にも幅広く参加いただいたことから、本セミナーの内容は一定程度、関係主体に浸透したものと評価できる。

アンケート自由記述意見をもとに、以下の成果が確認された。

- 成果①：公共交通を「都市価値向上への投資」と捉える視点の共有
 - ・ 「黒字にすべきは“まち”である」という基調講演のメッセージが強く支持され、公共交通を赤字事業としてのみ捉える従来の議論からの意識転換が確認された。
- 成果②：先進事例の提示による理解の深化
 - ・ 学研都市と同じく国家プロジェクトとして建設された筑波研究学園都市における、つくばエクスプレス開業後の都市発展の事例は、公共交通整備が都市成長に寄与する具体例として、理解を補強するものとなった。
- 成果③：多主体の行動特性を踏まえた公共交通整備の必要性の共有
 - ・ 地域公共交通利用者代表の発言を通じ、研究者・学生・企業・住民といった多様な主体の行動特性の違いを踏まえた上で、学研都市全体としてどのような都市像を目指すのか、その実現に公共交通整備の必要性について共有された。

4 課題の整理

一方で、アンケート結果からは、以下の課題も明らかとなった。

- 課題①：
 - ・ 時間の制約上、パネルディスカッションでの議論が、学研都市の広域的な公共交通アクセスの具体的課題まで言及できなかった。

● 課題②：

- ・ 公共交通整備の課題の一つとして、財政的支出のみでは解決の難しい運転手
担い手不足問題まで言及できなかった。

5 総括

- ・ 今回のセミナーは、アンケート結果からみても「有意義だった」という声が多く、
本セミナー開催目的の「機運醸成」という観点では寄与したと評価できる。
- ・ 特に、谷口教授の講演を通じて、①都市と交通はセットで考えることが重要である
こと、②公共交通事業単体で赤字・黒字を見るのではなく、黒字にするのはま
ちであるということ、③海外では公共交通に対して大規模な公共支出が行われて
いることについて、関係機関で共通認識を形成できた点は大きな意義があった。
- ・ 行政側としても、公共交通に対する支出のあり方を“思い新たに”する契機とな
ったことは、本セミナーの最大の成果であり、今年度実施したことの価値はあつ
た。

●セミナー当日の様子



筑波大学谷口教授 基調講演



パネルディスカッションの様子

6 来年度テーマ案

- ・ 本年度に形成された共通理解を基盤として、次年度は、学研都市内のクラスター
間接続のあり方など、学研都市固有の公共交通課題をテーマに設定し、具体的な
整備方策や施策の方向性について議論を深める機会としたい。

テーマ案：①学研都市内のクラスター間接続について

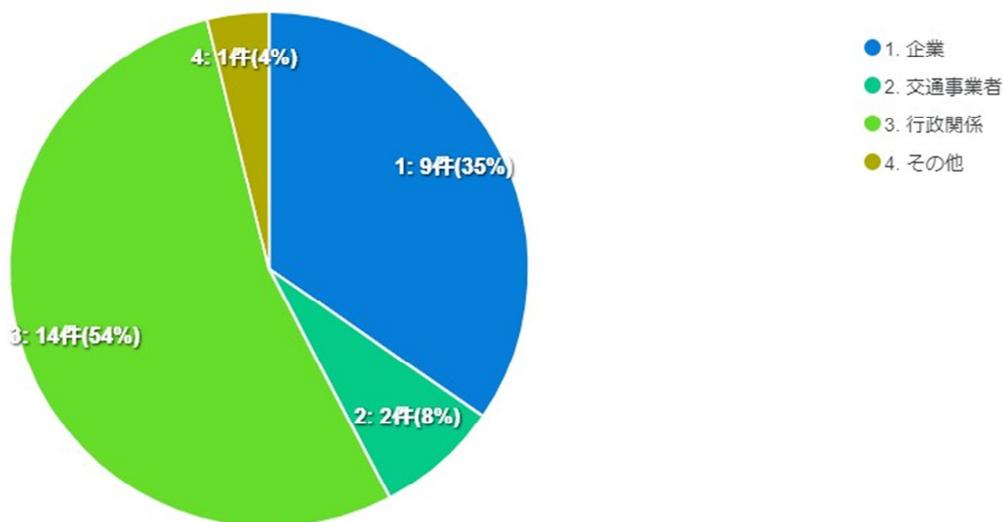
②公共交通への利用促進について

※①または②

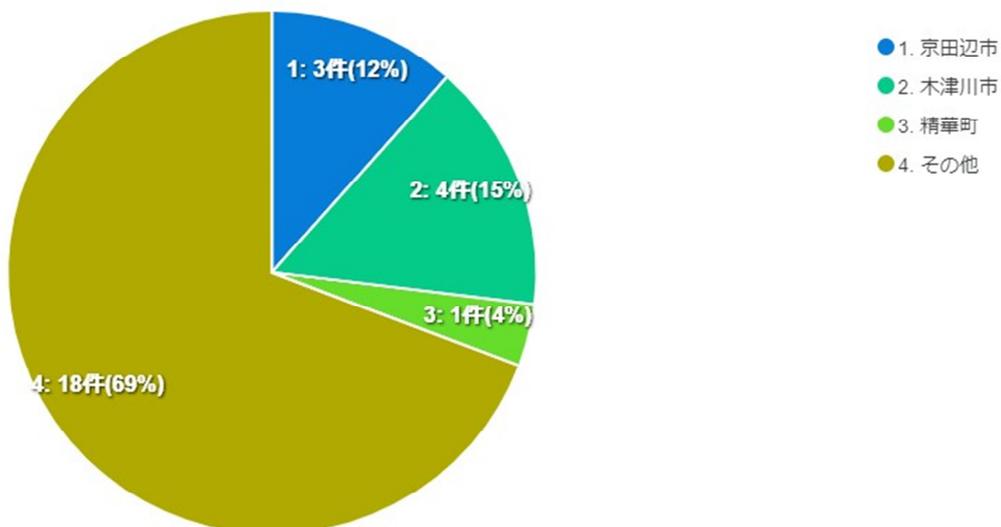
学研都市京都府域・公共交通セミナー アンケート結果報告書

開催日：令和7年11月6日（木） 参加者 110 名（回答数 25 件）

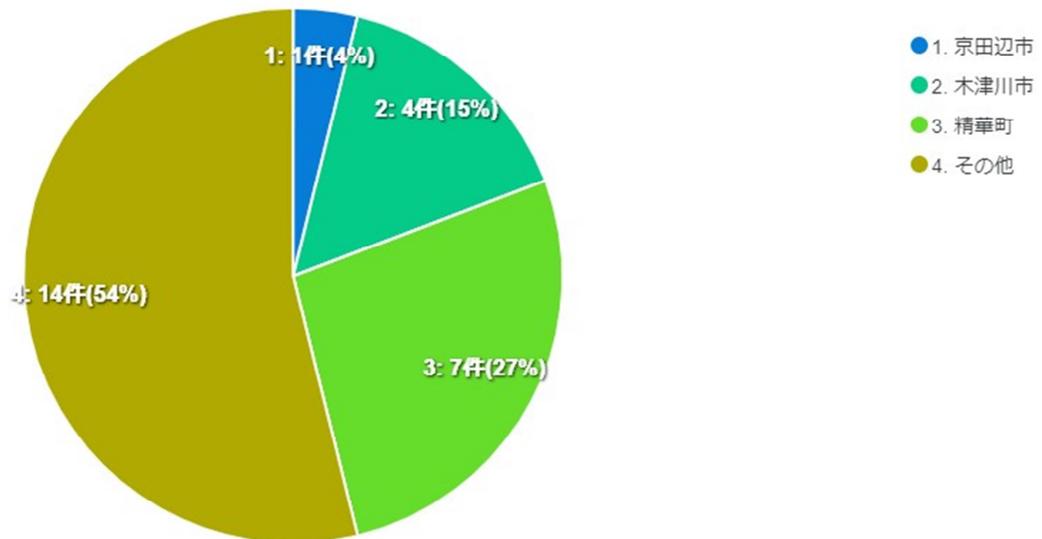
あなたの所属を教えてください。



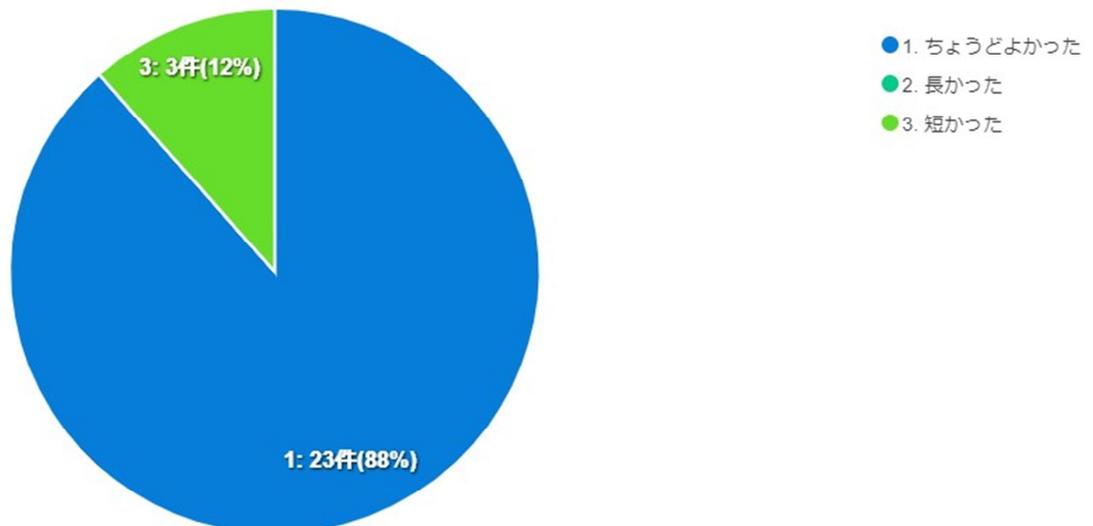
居住エリア



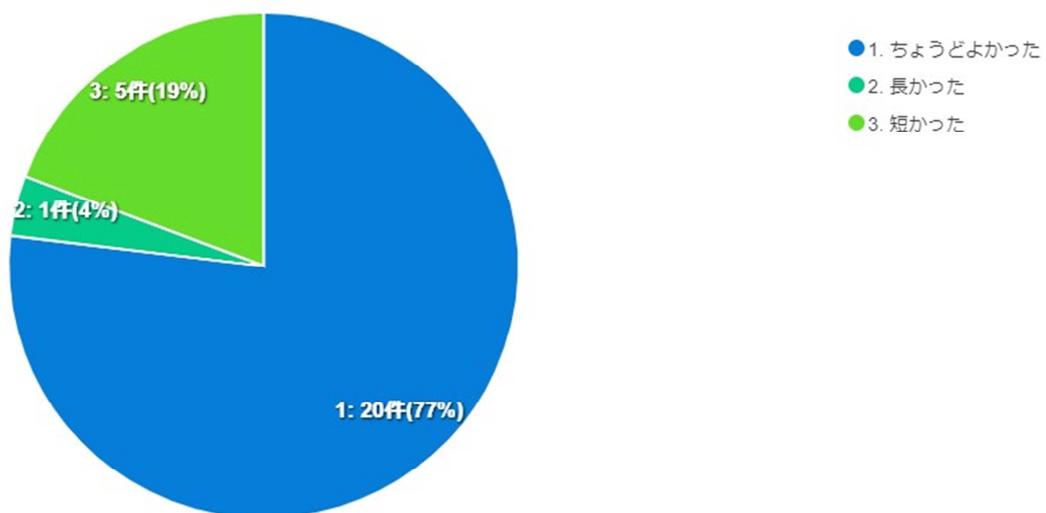
お勤め先エリア



経過報告



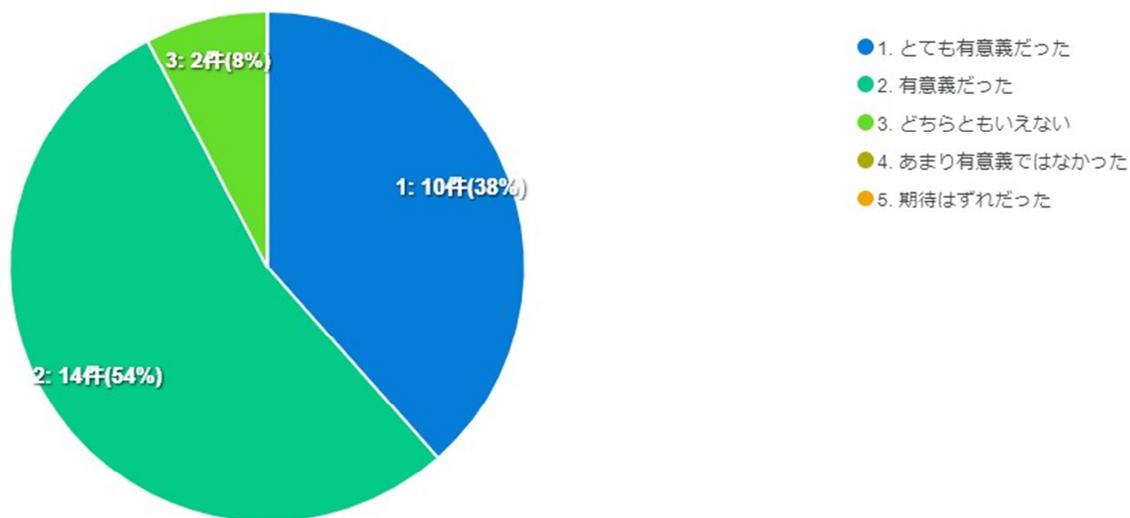
基調講演



パネルディスカッション

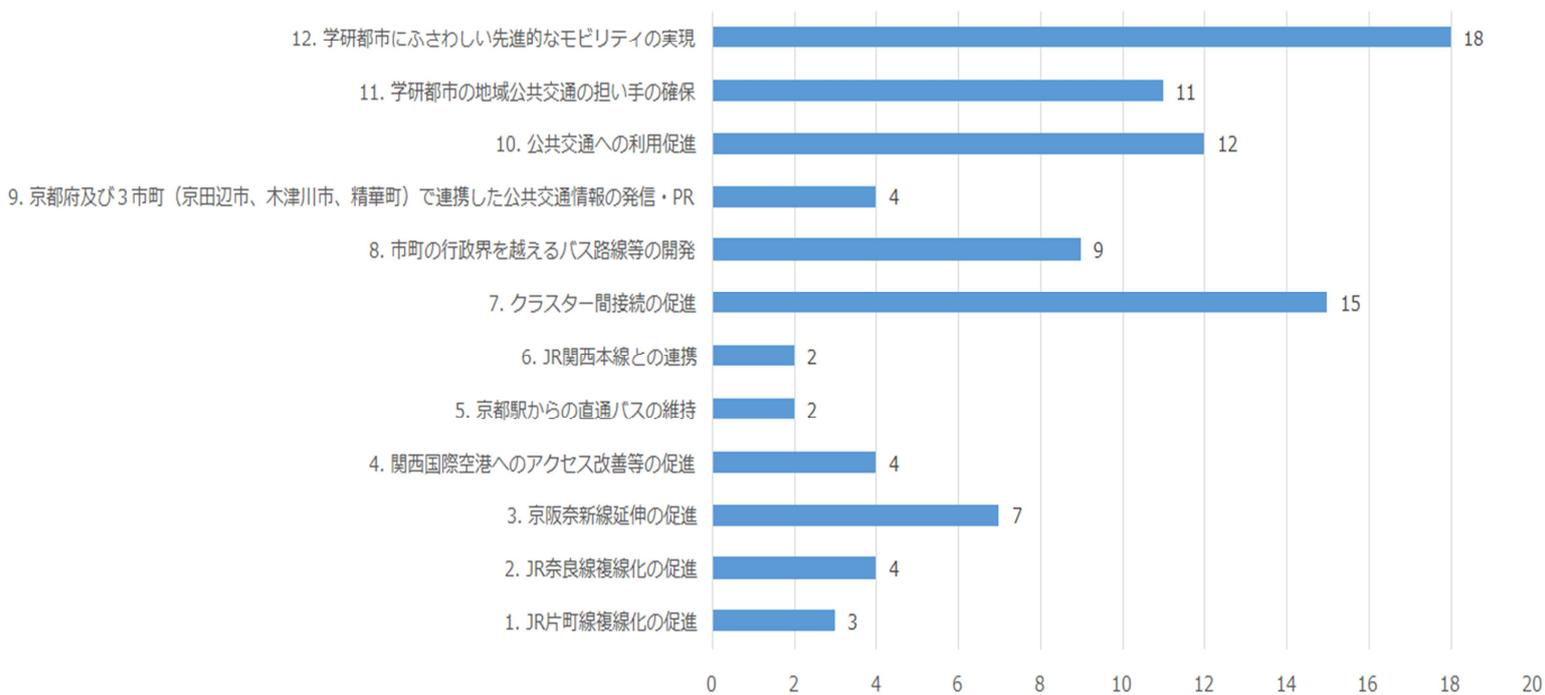


公共交通セミナーの満足度をお聞かせください。



今後「公共交通セミナー」で期待するテーマを教えてください。(複数回答可)

今後「公共交通セミナー」で期待するテーマを教えてください。(複数回答可) (件数)



セミナー全体を通じての感想を教えてください。(任意回答)

- ・ 公共交通が持続的なまちづくりの基盤になることがわかりました。公共交通は赤字は当たり前で、関係者のみならず住民も負担しながら、活性化していく必要があるということは目から鱗でした。意識醸成に大変意義のあるセミナーだったと思います。
- ・ 谷口先生の講演にあった「黒字にすべきは”まち”」に同感しました。今後の業務に役立てたいと考えております。
- ・ 興味深い内容で、楽しく聞かせて頂いたが、今後は担い手確保など、交通事業者が直面する課題についても触れていただけるとよいと思います。
- ・ つくばの現状が聞いてよかった。国交省から近畿管内の先進事例や補助事業などの具体の紹介があるとよいと思います。
- ・ もう少し時間をかけてそれぞれの内容を充実させて貰えばと思いました。また、対象エリアの公共交通網への提案、試案など、もう少し踏み込んだ議論あればよかったのではないかと思います。例えば学研都市内の研究者や学生にとっては、お茶を飲みながらちょっと議論したり打合せができるよような場づくりと併せて考える事が必要で、住民さん、立地する企業の就労者さんなど、色んな立場の人が、それぞれのどういう場面でどうあれば便利なのかを考える事だと思います。学研都市が良い都市になることを期待しています。
- ・ 特に基調講演は参考になりました。
- ・ つくば市の取り組みについて紹介は非常に参考になりました。どうすれば交通機関を呼び込めるのか、さらに議論を深めて聞いてみたかったです。
- ・ 基調講演の中であった、まちの黒字化のための道具として公共交通を整備するというお話が印象に残りました。まちの価値を高める一つの手段としての公共交通がもっと評価されると、利用促進などにつながるのだと思いました。